

Windomの解答速報 東京慈恵会医科大学 英語

- I.
 (1) just
 (2) away
 (3) hats
 (4) consciousness

- II.
 (1):(a)
 (2):(c)
 (3):(a)
 (4):(c)

- III.
 (1):None
 (2):was
 (3):with
 (4):about

- IV.
 (1):(c)
 (2):(b)
 (3):(d)
 (4):(a)

- V.
 (1):(d)
 (2):(c)
 (3):(b)

- VI.
 問 1
 (1) 1
 (3) 2
 (5) 1
 (6) 4

問 2 their body temperature

問 3 2

問 4 D

問 5 4,8

問 6 このことは、つがいの相手を探す競争においてであれ、捕食者と餌食の間の生存競争においてであれ、明らかに多くの利点を提供している。

VI.

Look at the athletes (who are in full activity **または** performing well **または** playing actively) abroad. While in Japan, they strongly insisted on their opinions, and in some cases, many of them might have been regarded as impertinent(**または** rude).

(別解)

Look at the athletes (who are in full activity **または** performing well **または** playing activity) abroad. While in

Japan, many of them may have strongly had their own opinions and, if unlucky, may have been called impertinent fellows.

【講評】

大問数は昨年と同じとは言え、毎年出題されていた発音アクセント問題が消え、正しい英文を複数の中から選ばせる問題に取って代わられた。その他はほぼ同じ形式だが、頭文字指定の和文対照文による単語の穴埋め問題からは、和文がなくなり、不要語指摘問題では、余分な語がない場合もあるという条件が付いた。

大問 I の単語穴埋め問題は、概して難しく、とりわけ(2)の away や(3)の hats を入れられた人はほとんどいなかったのではなかろうか。大問 II では(2)の問題文中の the minutes 「議事録」の意味をとらえたり、(4)の「対立する」を表す単語を形の似たような間際らしい選択肢の中から選ぶのが大変だったと思う。大問 III の(1)の make do with ~ : 「~ですます」、は直す必要はないが、make がなくても do with~で同じ意味になってしまうので、答えは none を求めている出題であろうが、make を余分の語とした場合どう処理するのかが量りかねる。大問 IV は、難しくはないが(2)の err on the side of~ : 「~すぎる」、という熟語はストレートには選びにくかったのではなかろうか。大問 V は新傾向問題だが、非常に素直で容易に解けるものであった。大問 VI の長文はここ 2 年間西欧の歴史的な内容であったが、今年は恒温動物と変温動物に関する科学的な文章であった。内容は分かりやすく設問もひねくれてはいないので解きやすかったと思う。大問 VII の和文英訳は昨年よりは書きやすい内容だったと思う。「活躍している」 : be in full activity, perform well, 「下手したら」 : in some cases, 「生意気な」 : impertinent, rude などの表現が上手く出るのがポイントであろう。また、「自分の意見を強くもっていて」の箇所一旦切って原文を解釈することによって may have p.p をそこにかけるか否かで二通りに訳せるかもしれない。解答例では二通りの解釈の仕方で訳しておいた。

Windom の直前対策授業で扱ったことが第 III 問の動詞の用法に良く出ていた。また、beside the point や maintain などの語彙は通常授業で何度も扱ったものであった。合格ラインとしては少なくとも 85%は欲しいところだ。